

応援します
元気な農業

農業委員がキューピット役

仲人活動を開始

「このままでは葛巻の後継者がいなくなる！」と、農業委員会が仲人活動を始めました。

本町でも、独身の後継者の高年齢化、結婚しない人の増加などにより、農業に限らず担い手不足が深刻化しています。

農業委員会では、周囲にお世話をする人がいなくなったことも原因の一つではないかと考えています。

そこで、本年度の活動の目玉を「アトツギー・キューピット事業」と名付け、農業委員がお節介おじさん・おばさんとなり、仲人活動に取り組みました。

「地域に密着した活動の一環としての取り組みです。あくまで希望者に対してお世話しますから」と元村義男会長は話しています。



お節介おじさん・おばさん登場！

「お世話をしてほしい」「息子、娘にだれかお相手を」と結婚相談や支援を希望する方は、お近くの農業委員または同委員会事務局（☎役場内線二五二）に申し出てください。

くずまき高原グリーンツーリズム推進協議会（藤森雅美会長）は、七月から「くずまき高原満喫ツアー」を行っています。

今年「マイボトル山ぶどうジュース作り」「あなただのそば作り」の二つの体験コースが用意され、剪定や種まきから収穫、加工まで一連の農業体験ができます。

七月九日はブドウ剪定作業、二十三日はソバの種まきが行われ、町内外から四十五人が参加しました。

「剪定がこんなに大変だとは思わなかった」と話しながらも、参加者は予定時間が過ぎても作業を続け、

食や農の大切さを実感

くずまき高原満喫ツアーがスタート

農業の苦労やおもしろさを感じているようでした。

一人一アールの畑を借りて行われたソバの種まき体験は、畑の貸し手でもある星野由蔵さん（芫・土谷川）が指導しました。「種に小麦粉を混ぜてまくと、どこにまいたか分かるよ」と豊富な経験から生まれた知恵や、戦時中の食料・衣服などが無かった大変な時代の話をして、参加者に食の大切さ、ありがたさを熱心に伝えていました。

今後のツアーは、実りの秋を待ち、十月に山ぶどうジュース作りとソバの収穫、十二月にはそば打ち体験が行われます。



講師の星野さん(円内)からソバ種のまき方や土の掛け方を教わる参加者



くずまきワイン職員から山ぶどうの剪定の仕方を聴く参加者